

# きよなん 議会だより

第158号

令和8年2月5日発行



令和7年12月定例会……………P2～4  
議会改革等検討特別委員会…P5  
8議員が町政を問う……………P6～13



町ホームページにも本誌を掲載しています

# 8 条例改正

## 5 補正予算案を可決

令和7年第6回定例会を、12月9日から12月12日までの4日間の会期で開催した。専決処分2件、千葉県人事委員会勧告に基づく給与・各種手当の改正等を含む、条例の一部改正8件、規約の変更に関する協議2件、指定管理者の指定2件、令和7年度補正予算5件の、計19議案の審議を行い、原案の通り可決した。一般質問は9日に4名、10日に4名の8議員が登壇した。

### 条例改正

〈主な改正〉

- ◆ 水道事業の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
- ◆ 鋸南町議会議員及び鋸南町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正
- ◆ 一般職の任期付職員を採用等に関する条例の一部改正
- ◆ 第一号会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当及び費用弁償に関する条例の一部改正
- ◆ 鋸南町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正

### 規約の変更

〈主な変更〉

令和8年3月31日をもって、三芳水道企業団、九十九里地域水道企業団及び南房総広域水道企業団が解散することに伴い千葉縣市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数が減少すること、共同処理する職員採用試験の合同実施に関する事務を廃止。

### 補正予算

#### 一般会計

〈主な事業費〉

- 鋸南中学校校高圧受変電設備改修工事 250万円
- 庁舎玄関庇柱応急工事 320万円
- 豊かなまちづくり寄付金業務代行委託 276万7千円
- 障害者福祉サービス費 2485万円
- 鋸南町消防第4分団詰所改修工事 137万5千円



第4分団詰所シャッター交換

### 令和7年12月補正予算

	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	49億5199万9千円	8385万5千円	50億3585万4千円
国民健康保険特別会計	10億101万6千円	5655万2千円	10億5756万8千円
介護保険特別会計	15億5286万0千円	3552万3千円	15億8838万3千円
鋸南病院事業会計	2076万9千円	120万円	2196万9千円
水道事業会計	4億9113万9千円	235万4千円	4億9349万3千円

質  
疑

問

庁舎玄関、<sup>ひさし</sup>庇の柱の応急工事をするとのことだが、今回の応急工事が今後予定されている庁舎玄関の改修工事の時に無駄にならないよう改修工事をして欲しい。

また、補強工事の内容は前に説明頂いたが、もう少し詳しく説明して欲しい。

答

年度の途中で庇の部分から雨漏れが生じており柱を点検したところ、根元の部分が腐食していました。

施設の構造上、庇が倒れた場合には人命に係ることが想定されるために早急にしました。

工事は1m20cmの高さまで鉄筋の基礎を作りコンクリートで覆う工事です。

今後、庁舎玄関の工事の際には、今回の工事を生かした庇になるようにします。

要望

庁舎の玄関は町の顔になると思います。今後、台風などの被害も想定されるので早急に対策してほしい。

問

今後の庁舎整備の予定はどうか。

答

庁舎玄関の庇の部分、防災展示室の自動ドア、壁紙の剥がれ、外壁、屋上からの排水パイプなどを考えています。

庁舎に関しては財源がつかない部分があり、どうしても後回しになっているのが現状です。

現在は、空調など職場の環境整備は整いましたので、来年度から、庁舎整備の設計などに取り組んでいきたいと思えます。



工事中の庁舎玄関の柱

国民健康保険特別会計補正予算

反対討論

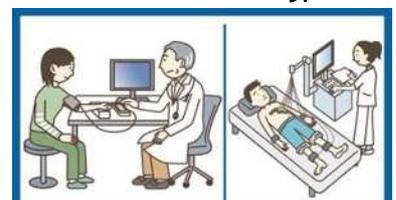
竹田 和明 議員

私は、議案第16号に対し反対の立場から討論を行います。国民健康保険は皆保険制度の要ですが、本案には将来を見据えた抜本的な改善姿勢が欠如しています。

反対理由の第一は、重症化予防の甘さです。本補正予算は事務的な精算が主ですが、医療費抑制に不可欠な予防策が不十分です。特に糖尿病等の生活習慣病は、初期介入を誤れば透析導入を招き、QOL低下と年間約500万円もの医療費増を招きます。受診率向上や指導強化を怠り、目先の収支合わせに終始する姿勢は行政の怠慢です。

第二は、データヘルスの取り組み不足です。先進自治体がAI等でレポート分析を行う中、当町は計画の形式的遂行に留まっています。データを戦略的な予防策に結びつける熱意も感じられません。エビデンスに基づかない事業の継続は公金の浪費です。

数字の帳尻合わせではない、科学的アプローチによる制度構築を強く求めます。



初期介入による生活習慣病予防を

# 令和7年第6回定例会 議決結果

賛成「○」 反対「×」 ※議長は採決に加わりません

議案番号	件名 (件名は一部省略)		鈴木議員	精方議員	青木議員	大塚議員	竹田議員	早川議長	笹生議員	秋山議員	柴本議員	中村議員	徳宮議員	東議員
<b>&lt;専決処分の承認&gt;</b>														
議案第1号	令和7年度鋸南町一般会計補正予算(第4号)	承認	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第2号	令和7年度鋸南町一般会計補正予算(第5号)	承認	○	○	○	○	○	-	○	×	○	○	○	○
<b>&lt;条例の制定&gt;</b>														
議案第3号	水道事業の統合に伴う関係条例の整備に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○
議案第10号	鋸南町水道事業の設置等に関する条例等を廃止する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○
<b>&lt;条例の一部改正&gt;</b>														
議案第4号	鋸南町議会議員及び鋸南町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第5号	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第6号	第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当等及び費用弁償に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第7号	鋸南町特別職の職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○
議案第8号	一般職の職員の給与等に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第9号	第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
<b>&lt;協議&gt;</b>														
議案第11号	千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少、千葉県市町村総合事務組合の共同処理する事務の一部廃止及び千葉県市町村総合事務組合同規約の変更に関する協議	可決	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○
議案第12号	安房郡市広域市町村圏事務組合同規約の変更に関する協議	可決	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○
<b>&lt;指定管理者の指定&gt;</b>														
議案第13号	鋸南町ボランティアセンター(鋸南町社会福祉協議会)	同意	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第14号	町営保田漁港公示施設(鋸南町保田漁業協同組合)	同意	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
<b>&lt;補正予算&gt;</b>														
議案第15号	令和7年度鋸南町一般会計補正予算(第6号)	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第16号	令和7年度鋸南町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決	○	×	○	○	×	-	○	○	○	○	○	○
議案第17号	令和7年度鋸南町介護保険特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第18号	令和7年度鋸南町鋸南病院事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○
議案第19号	令和7年度鋸南町水道事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○

## 議会改革等検討特別委員会 鋸南町こどもの声議会プロジェクト



主権者教育の一環として、1月22・30日に鋸南町の小学6年生と中学2年生を対象に、出前講座を行いました。

子ども達に「議会の役割、議会と執行部の関係等」と「町民の声」が町政に反映されるまでのプロセス、事例等を説明した後、子ども達からの質問や提案を聞く時間を持ちました。

今後は中学校生徒による模擬議会開催を目指し、学校側と連携し、地方議会を学ぶ取り組みを進めていきます。

### 「町民の声」が町政に届くまでの流れ

中学生用  
資料



# ここが聞きたい いっぱん質問

あきやま りゅうぞう  
秋山 柳三 議員



問

地域防災についての問題点を再確認する

答

今後も必要に応じた情報提供と支援を行います

## 防災について

令和6年3月議会で取り上げた  
防災関連の問題点について伺う。

問

町民から「行政主体の避難行動や避難所の情報を共有する講習会」を行うべきという声が多いがどうか。

答

一律的な講話・講習会より地区の個々の実情や要請に応じた、個別対話重視型の防災講習会が適していると考えます。今後も行政主導ではなく、各地区の要望に応じて開催してまいります。

問

防災対策監の派遣や講話は要望がなければ行わないということか。

答

地域の自主性を尊重し、皆様が主体となって防災意識を高めて頂き、町は必要に応じて情報提供や支援を行うという進め方が、最も有効と考えています。

問

昨年に続き再確認するが、備蓄倉庫の非常食や備蓄品の保管・点検状況はどうか。

答

不定期で数量や外観を目視点検すると共に、保管状況も確認しています。また、2年前から、7年計画で町民の10%に対して、3食3日分の非常食などの備蓄を計画的に進めています。

問

機械類に関しては、目視点検のみでなく、作動確認も必要と考えるかどうか。

答

作動確認は、人的にも財政的にも負担が大きく、現状では目視確認を中心に、必要に応じて作動確認を行っています。

問

負担が大きく現実的ではないから目視点検で済ませるとの見解だが、それでいいのだろうか。ガソリンも長期間保存していると劣化する。動かないかもしれない機械と劣化した燃料を大事に保管しても意味をなさない。実用性を伴った保管方法が必要と考えるがどうか。

答

今後は定期的な作動確認の在り方の、検討を進めていきます。

問

デジタル無線受信機の全戸導入は完了したか。また、アンテナ設置等の状況はどうか。

答

戸別受信機の配布は基本的に完了しています。さらに、受信状況の悪いところには、防災行政無線の音声が届くように、アンテナ設置等により環境を整えています。

問

過日の総合防災訓練は、防災力向上に十分な成果はあったか。また今後の避難訓練への課題は何か。

答

当日は雨の影響もあり、参加者は例年より少なかったと思います。しかし、災害は天候や時間を選ばず発生するので、現実に近い状況での体験ができたと思っております。今後の防災体制を検討する上で、有意義であったと考えます。また、課題については、区長会での振り返り等を通して、次年度の防災訓練に活かしていきたいと考えます。

問

歩行困難な方や、お体の不自由な方の避難方法はどのように考えているか。

答

災害は予測できない状況で発生するため、平常時から地域での共助の体制を整えておくことが実際の避難時においても一番大事ではないかと考えます。避難場所として高台にある民間施設と良好な関係を築いていきたいと考えています。

要望

今回は、昨年の質問の振り返りを元に、疑問点を中心にお伺いしたが、若干失望を禁じえませんでした。防災は最も大事なことであり、町民の安全を最優先に、今後も施策を進めて頂きたい。



**問** 鋸南町役場・職員を元気にするには？

**答** 職員の負荷を減らし、人材育成に取り組めます

なかむら もとい  
中村 基 議員

鋸南町行政職員の

人材育成について

過去5年間で、自己都合による退職者・休職者数が倍増している。職員アンケートでは「戦力が上がってこない」「コミュニケーションの不足」「仕事の効率化と人材育成の遅れ」で生産性が停滞している状況が浮かび上がった。

日常業務に加え、国・県からの高度な仕事が増加していることもあり、疲弊しているのではないだろうか。将来の鋸南町を担う職員の負担を軽減し、行政運営への支障を防がなければならない。

**問** 【①職場の戦力を高める】

業務経験の浅い層を指導できる中堅層が半分しかない状態のなか、基本的に一人で完了させる業務体制のため、進捗が分からず、応援を得ることも難しい。また個人別の仕事量の偏りもあり、これらが停滞感を生む一因ではないだろうか。業務の応援が可能な進め方に変え、ひとり一人の負荷も実態に合わせ調整し組織としての戦力を高めてはどうか。

**答**

庁内の体制や仕組みの見直しを行い、人員配置を柔軟化すると共に、職員のスキル向上を図ります。

**問**

【②職場内でのコミュニケーションを改善】

自己研鑽の場として、管理職については「部下とのコミュニケーションの在り方」を、若年中堅層では、上司への「報告・連絡・相談」の仕方を学ぶための、※「ワークショップ」を開催してはどうか。その上で、職場の意見が「タイムリーに届く提案制度」を設け、より風通しが良くなるような環境へと整備することも必要と考えるがどうか。

※「ワークショップ」参加者が対話と実演を通して学びあう場

**答**

情報共有できる場を設けると共に、匿名で意見投稿できる環境を整えます。

**問**

【③仕事の効率化を進める】

「今までこうだから」の態勢では改善が進みにくく、生産性も下がる可能性がある。若年中堅層から、作業改善の提案を上げて頂き、良いものは取入れると共に、管理職は、専門家の協力を得て、業務の流れを見直してはどうか。

**答**

各課の実情に合わせた段階的な取り組みと、全庁横断的な支援体制を整えます

**問**

【④教育体制を整える】

「人材育成方針書」を作り、ひとり一人計画的に職員を育てること、他市との合同の研修に加え、庁内の「新人研修」もを行い、早い段階で仕事に対する考え方を管理職が教えること、年功序列の賃金体系から、「仕事の成果を給与に反映させる仕組み」を取入れ、士気をより高めること（他市導入）、人材育成を推進するための「教育係を専任化」して、職場内環境を少しずつ変えていくことも必要と考えるがどうか。

**答**

職員の経験と職種に合わせた人材育成方針書を作成するとともに、新人研修も再開します。さらに、納得感の得られるような人事評価制度の見直しを検討します。

**提言**

①～④の手順で進めることで、現状は必ず改善できると考えます。



しばもと けんじ  
柴本 健二 議員



**問** 東京と鋸南町を結ぶ高速船の誘致を

**答** 現時点では難しいものと判断している

**東京と鋸南町を結ぶ高速船の誘致について**

我が町は、都会に近く海と山に囲まれ、年末から年始は水仙の花が香り、2月には頼朝桜、3月にはソメイヨシノなどの桜、さらには鋸山に周年を通じて多くの観光客が訪れている。

**問**

現在、東海汽船株式会社は、東京と館山間を75分で結ぶ高速ジェット船の春のみの季節運航を行っています。そこで、我が町としても町の活性化を目指して東京と鋸南町を結ぶ海航路を要望すべきと思うがどうか。

**答**

本町は、東京都心から車で80分の距離に位置し、交通網の充実により自動車による来訪が主流となっている。

また高速船が発着する棧橋については、東海汽船就航時に使用していた竜島堤防は千葉県が管理し構造的な問題等があり、高速船の着岸可能な岸壁の整備や多様な客層のニーズに応えられる二次交通の整備など課題が多く、現時点では難しいものと判断しています。

**問**

夏の海水浴の入込数は地域振興課の資料によると

令和6年度は20,318人、令和7年度で12,729人と、この2年だけで7,589人の減、減少率では約37%と大幅な減少となっていますが、これらをどのように捉え入込客数の回復について、どのような対策をするのか。

**答**

津波警報や台風の影響による開設の見合わせなどで、例年と比較すると、気象条件等悪条件が重なったことが入込数の減少に至ったものと認識しており、清潔感の高いトイレやシャワー等の改修により海水浴場施設の魅力の向上に努めます。



源頼朝上陸地碑

**史跡の源頼朝上陸地碑について**

竜島海岸に、源頼朝上陸地に關する二つの石碑が並んでいる、向かって左は、史跡、源頼朝上陸地碑であり、右は、県指定史跡、源頼朝上陸地碑であります。現在左の石碑は一部が欠落してコケが生えている状況。

**問**

左の石碑の一部欠落部分の修復及びコケ落としは行わないのか。

**答**

千葉県の史跡指定対象は石碑そのものではなく、玉ノ井165番地1の土地であり、両石碑は史跡を示すために町が設置した表示物です。

左側の石碑は、建立からすでに90年程度が経過し、石材の劣化が進み、老朽化が顕著な状況にあります。専門業者に補修方法等の調査を行い、対応を考えます。修復が困難と判断される可能性も否定できません。





**問** 移住定住促進の為の施策は

**答** 町有財産の有効活用が一番大事

しのみや まさき  
篠宮 真樹 議員

**移住定住について**

**問** これまでにイベントなどで移住定住促進のための取り組みを行っていると思うが、手応えや効果はどれ位あったと考えるか。

**答** 千葉県等が開催している移住相談会で年に2、3回程度相談ブースを出展しています。7月に都内で開催した移住相談会では本町の相談ブースに19組が訪れ、そのうち1組が実際に移住を検討したいと先般、空き家の内覧を行いました。

**問** 移住相談会に来られた方の年齢層は。

**答** 2025年の2回の移住相談会で7月には19組、11月には19組、11月には7組が鋸南町のブースに訪れ、20代3組、30代5組、40代1組、50代11組、60代6組となっています。50代以上が65%です。

**問** 働く場所や仕事があるか無いくっかけになる重要な問題だと思いが、移住して起業したい方に町

独自の支援制度は有るか、又考へはあるか。

**答** 現在、地域での起業を促進させるため、起業セミナー等の起業支援に向けて、関係機関と連携したワンストップ相談窓口の設置や創業スクールなどを実施し、起業希望者に対して各種支援を提供していくことを予定しています。

**問** 移住する場所を選択する場合、遠距離通勤がスムーズに出来るか出来ないかがポイントとなると考えるが、現在鋸南町から公共交通を利用し、都内など遠距離通勤するには大変だと思いがどう考えるか。

**答** 移住を検討される方々にとって就業先へのアクセス、特に都内などへの遠距離通勤の利便性は重要な要素の一つであると認識しています。

現在、都内への通勤には電車の乗り継ぎや運行本数などから通勤の負担が大きいのが現状だと考えています。

**問** 道の駅保田小への高速バス乗り入れの進捗状況はどうか。

**答** 高速バス事業者と協議を行っておりませんが、その中で来年度からの保田小への乗り入れを検討しているとのことでした。

**問** 移住体験してもらおうのが一番だと考えるが移住体験ができるような施設などを造る考えはあるか。

**答** 現在、町では移住体験住宅は有していませんが、設置に向け担当課で検討を行っています。具体的な整備については、町が所有する住宅を改修するか、民間の住宅を借り上げて整備するかなど、引き続き検討をし、来年度を目途に整備手法を判断したうえで、整備を進めて行きたいと考えます。



たけだ かずあき  
竹田 和明 議員



**問** 教育長の教育哲学は

**答** 子どもとの対話や  
非認知能力を育むのが使命

**問** 教育の「使命感」の再構築と未来を育む教育体制の確立について

全国的な教員不足の深刻化の根本原因は「過度な教育の合理化による教員の使命感の希薄化」にあるのではないかと。この点、教育長の教育哲学と、それに向けた具体的な施策をどうするかについて質問する。

**答** 「教育の合理化」により教員が本務である「人を育てる」営みに向き合う時間が減少し、使命感を実感しづらいという構造的課題があると認識しています。現場からは「雑務が多く教育の手応えを感じにくい」という声が寄せられています。教員の使命は、子ども達のテストの点数だけを伸ばすものではありません。子どもの発達に応じた対話と深い関わりの中で、数値では表せない非認知能力（意欲、忍耐力、自制心、協調性、立ち直る力など）を育む専門性こそが教員の使命です。そのような教育環境の整備こそ教員不足解消に向けた最も重要な取り組みだと考えます。

子どもとの対話、授業準備、教材研究などを最重要業務として確保する一方で、教員でなくても実施可能な事務作業は「切り捨てる業務」として明確に整理し、スクールサポートスタッフの配置や校務支援ソフト導入などにより、教員が「人と向き合う仕事」に集中できる構造改革を進めます。

**問** 教員の働き方改革、地域連携について

**答** 働き方改革は「子どもと向き合う時間の最大化」を主眼とし、会議数の精査や校務支援システムの活用を進めます。部活動についても、段階的に地域展開することで教員負担の軽減を図ります。これにより創出された時間は「子どもの心のケア」や「一対一の対話」に振り向けられています。

鋸南町の豊かな地域資源を活用し、学校を地域に開く体制づくりを進めています。小学校では「学校応援団」による給食配膳や見守り支援、中学校では部活動の地域展開や地域人材による探究活動への協力など、地域と役割を分担する体制を構築しています。令和5年度からはコミュニティ・スクールを導入し、持続的な協働体制を築いています。



GIGA スクールの授業風景（イメージ）

**問** GIGAスクール構想と非認知能力の育成は

**答** デジタル活用が進む中でも「非効率な学び」こそ教育の核心であり、デジタルとアナログのハイブリット教育を推進します。

地域の資源や課題を教育素材として活用するカリキュラム開発は必要不可欠です。学年に応じて地域の人の仕事や暮らしを学ぶ「鋸南ふるさと教育」を進めています。

**問** 現在実践されている幼小中教育構想は、非認知能力を一貫して育む特色ある教育であり、少子化による密な指導環境がむしろ強みといえる。そこで、子どもの成長に応じた探究活動の成果を客観的な教育実績としてまとめ、移住体験会等で発信するなど、子育て世代に向けた戦略的な移住促進広報を検討できないか。

**答** 将来を見据えた大変有効な提案だと受け止めています。本町の強みである小規模ゆえの教員と児童生徒の距離の近さや、きめ細かな学びを「教育ブランド」として明確化する考えです。情報管理等には慎重な配慮を要するものの、企画部局と連携し、安心して子育てできる魅力を移住希望者へ正確に伝える広報を推進します。「地域があるから学校がある」との方針の下、教育力の適切な発信に努める所存です。



**問** アンケートの低回答率に疑問

**答** 回答しやすい環境と意識付けに努力します

おがた たけし  
緒方 猛 議員

子ども・子育て支援事業計画について

第3期裾南町子ども・子育て支援事業計画が策定された。アンケート調査は、就学前児童の保護者、小学生の保護者、中学生を対象に実施。町は子育て環境づくりの5年に1度の大切なアンケート調査だと言っている。

調査対象	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	98	60	61.20%
小学生保護者	157	113	72.00%
中学生	131	79	60.30%

アンケートの配布・回収状況

**問** アンケート回収率60〜70%台で結果はあまりにも低いと言わざるを得ない。子ども達にとって、これも教育の一環ではないか。また、小学校発行「夢に向かって」が10月発行の21号で大切な「学校評価」の保護者調査で63%と低い。(R5年度は93.5%)保護者全体の評価とは言えないとのコメント。教育委員会は

両調査結果をどのように考えているのか。

**答** 町の前回調査では就学前児童79・8%、小学生90%。

いずれも保護者からの回答であり、中学生本人への調査は前回実施していません。回答率は、前回調査値の方が、今回を上回っていますが、アンケート結果に影響を及ぼす程度ではなく、十分に信頼性は確保されているものと考えています。詳細は分析していませんが、今回調査実施の際は、調査期間の延長等を行ったものの年度末の終業時期、中学3年生は受験時期であったことも影響したのではないかと推測しています。しかしながら町としては回収率が6割という結果に留まったことは問題意識ももっています。次回は、より回収率が向上するような対策に努めていきます。

**問** 中学3年生には、調査のタイミングに問題があったとのことだが、学年別の回答率はどうだったか。

**答** 1年生は84.6%、2年生は73.3%、3年生は17%という結果でした。

**遊休農地化前の管理は**

**問** 遊休農地化する前に、町に届け出方式の考えはないか。耕作者として、農業系学校の卒業生を地域おこし協力隊として要請できないか。また、遊休農地の面積は。

**答** 昨年の調査で、全農地が約557ヘクタールの内、復元可能な遊休農地が約52ヘクタール、復元困難な農地が約173ヘクタールです。現在活動している地域おこし協力隊1名は花き農業とロスフラワー活用で成果を上げています。今後は、新規就農相談会等に、より積極的に参加し、担い手確保に取り組んでいきます。

**明鐘岬部トンネルについて**

**問** 明鐘岬部トンネル内の道幅は狭くカーブで、一瞬とても暗い所がある。自転車も走っているし、早急に照度改善をして欲しいと考えるがどうか。

**答** 千葉国道事務所の管理で、歩道もなくLEDライトへの改修の必要性は共通認識だが、実施が先送りとならないよう、早期の改修を強く要望していきます。



あずま 東 あいの 愛乃 議員

**問** 地域活性のバロメーターでは？！

**答** 持続可能なまちづくりの鍵と認識

鋸南町まちづくり支援事業  
補助金制度について

「魅力的で活力ある鋸南」を創造するために、町民自ら取り組む事業に対する補助金制度が平成19年度からスタートし、本年度は3団体に採択された。

住民の担い手不足や地域活力低下が課題とされる中、住民主体の活動やチャレンジを町として支援していく体制は、今後ますます重要になると考える。

開始から18年経つ制度の目的・運用状況・広報体制・改善可能性について問う。

**問** この補助金制度の目的と、町として措置している効果は。

**答** 町がすべてを担うのではなく町民の皆さんが「自分たちのまちは自分たちで良くしていく」という意識を持ち、地域の未来を切り拓いていくことを目的とし、町民自らが町のことを考え、実際に行動に移し、まちづくりへの参加意識の向上が図られることが効果として考えられます。

**問** 過去5年間の申請数・採択数・不採択数は。

**答** 新規申請の団体数は5団体で採択されたのは4団体、不採択は1団体です。申請件数の内訳は、令和7年度は2件、令和6年度は1件、令和5年度は0件、令和4年度は2件、令和3年度は0件です。

**問** 新規申請数が年平均1団体と大変少ないが、理由として、どのような原因が考えられるか。

**答** まず制度の認知度が不十分であること、また申請するにあたり、企画書の作成や審査を得る必要があることが、団体によってはハードルが高いと感じるのではないかと考えます。

**問** 募集開始から締め切りまで20日間程しかないが、もっと早く制度を知らせ、募集期間を長くすることはできないか。

**答** 制度の概要や申請の流れについて周知を図り、できる範囲で早めに情報を届け、補助金の制度の趣旨を踏まえつつ、団体の皆さんが申請しやすい環

境を整えることが重要であるとと考えています。

**問** 町の予算では3団体分の30万円が計上されているが、継続と新規の団体数が3団体以上となることは可能か。

**答** 継続団体がある中で、新規に複数の団体から魅力ある提案が寄せられた場合、状況によっては予算を追加し支援団体を増やすことも可能です。

**意見** 制度は、住民が「使いやすい」と感じて初めて効果を発揮すると思われる。鋸南町まちづくり支援事業補助金制度が、町民のチャレンジや繋がりを生み出し、「やりたいことができる町」として未来に繋がることを期待する。



鋸南町ホームページ



**問** 防災についてなど情報の多言語化を

**答** 効果的な情報発信を研究していきます

さそう  
**笹生 あすか 議員**

**多文化共生のまちづくりについて**

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いに文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと、と定義されている。

2025年6月末の在留外国人数は、395万6619人で、過去最高を更新し、鋸南町にも外国人の住民が増えている。

**問** 現在、鋸南町で暮らす外国人はどのくらいか。また、窓口などでの対応はどうか。

**答** 11月1日現在でネパール国籍の方が42人と最も多く、フィリピン国籍の方が22人、ベトナム国籍の方が17人と続き、全体で15国籍141人の方が住民登録されています。

窓口での対応は、本町では就労目的で居住される外国人の方が多いため、受け入れ先の職場の方が随行するケースが殆どであり、日本語が離せない方でも問題なく意思疎通ができています。ごく稀にスマホの翻訳アプリを利用して対応したり、マイナンバーカードな

どの制度説明については、多言語用のパンフレットを活用し対応しています。

**問** 生活に不可欠な情報、特にごみの分別・収集に関してや、防災についての情報の多言語化が必要だと考えるがどうか。

**答** そのような情報は、日々の生活や緊急時において極めて重要で、これらの情報の多言語化について、現時点では十分とは言えず、これからの課題と認識しています。外国人住民の方々のニーズを把握しながら、多言語での情報提供の充実や、近隣自治体や関係機関とも連携し、効果的な情報発信の方法やツールの導入など、町の実情にあった方法を研究していきます。

**問** 「セーフティチップス」という防災に関して観光庁が監修し開発された無料アプリは災害情報を15の言語で通知してくれる。  
南房総市のホームページのようにもホームページに掲載し欲しいがどうか。

**答** 導入できるものであれば、早めに対応したいと考えます。

**会計年度任用職員の処遇改善について**

**問** 勤務形態によって休日手当や時給を上げるなど、給与の見直しが必要と考えるがどうか。

**答** 令和7年4月1日現在、33の職種の会計年度任用職員を任用しており、事務補助だけでなく、町内の景観整備や笑楽の湯など、様々な施設、分野で勤務していただいています。

報酬や各種手当については、毎年、厚生労働省より示される最低賃金、千葉県人事委員会勧告による職員の給与改定や、近隣市の状況も参考にしながら、改定をしています。今後にも必要に応じて見直しを行っていきます。



セーフティチップスのポスター

# 安房3市1町議会議長会 議員研修会に参加しました

1月16日（金）に館山市コミュニティセンターにて、安房3市1町合同の研修会が開催され、各議会の議員が参加しました。非営利シンクタンク構想日本シニアフェロー熊井成和氏による「これからの議会—市民と行政をつなぐ力～定数と役割、そして未来～」についての講義を受けました。



熊井成和氏

## 議会の日誌

- |        |                            |        |                        |
|--------|----------------------------|--------|------------------------|
| 11月20日 | 議員全員協議会                    | 12月16日 | 鋸南小学校視察                |
| 11月21日 | 県町村議会議長会定例会<br>及び議長・副議長研修会 | 12月25日 | 環境衛生組合議会定例会            |
| 12月2日  | 議会運営委員会                    | 1月8日   | 議会広報特別委員会              |
| 12月9日  | 第6回定例会開会                   | 1月15日  | 議会広報特別委員会協議会           |
| 12月10日 | 第6回定例会第2日目<br>議会改革等検討特別委員会 | 1月16日  | 議員全員協議会<br>安房3市1町議員研修会 |
| 12月11日 | 産業常任委員会                    | 1月21日  | 議会運営委員会                |
| 12月12日 | 第7回定例会最終日                  | 1月22日  | 鋸南小学校出前講座              |
| 12月19日 | 安房広域議会臨時会<br>及び議会全員協議会     | 1月26日  | 第1回臨時会                 |
|        |                            | 1月30日  | 鋸南中学校出前講座              |

## 編集後記

鋸南町も高齢化と人口減少が進み、15年後には人口が半減するとの予測もあります。こうした厳しい状況の中でも「小さくとも幸福度の高いまち」として歩み続けられるように現在、総合計画や公共交通計画の策定を進めています。

また、4月からは水道の広域統合や新たなごみ処理施設の稼働が始まり、職員も日々の対応に追われながら、町の将来を見据えた取り組みを進めています。

議会としても、町民の皆さまとのタウンミーティングを通じた意見交換や、小中学生を対象とした子ども議会の開催など、対話と学びの場づくりを力を入れています。

未来を担う子どもたちが主権者として町に関わり、誇りを持てるような機会を、今後も大切にしていきたいと考えています。

本年も、これまで以上に町民の皆さまと向き合い、声を受け止め、町の運営にしっかりと寄り添ってまいります。引き続き、温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

（中村 基）